

想創奏

No.55



SOUSOUNOMORI
HINA
MATSURI



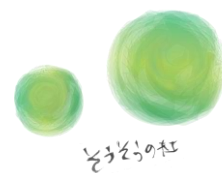
そうそうの社

令和5年4月 発行人 / 荒川 輝男 編集人 / 出口 祐也
社会福祉法人そうそうの社

〒536-0013 大阪市城東区鳴野東 3-2-26

Tel 06-6965-7171 / Fax 06-6167-2622 / HP <http://www.sou-sou.com/>

想そうそう創奏



No.55 Contents

■新年度に期待をかけて

荒川 輝男 …3

■各事業所紹介

地域生活支援センター あ・うん …4

Prife …6

座座 …8

つむぎ館 …10

Kawasemi …12

庵 …14

げんげん …16

創奏 …18

いま福の家 …20

伝 …22

添 …24

ホームヘルプセンターとことこっと …26

地域生活支援センターあ・うん(介護保険) …28

大阪市障がい者就業・生活支援センター/北部地域センター …30

■エッセイ

春のきざし 關 宏之 …32

恩送り 和田 数子 …35

■年末の様子

…36

■寄付にご協力いただきありがとうございます

…37

新年度に期待をかけて

理事長 荒川 輝男

2022年度の出来事の数々、第3次世界大戦突入を思わせるようなロシアによるウクライナ侵攻問題、コロナの終結?、政治の混沌、安倍元首相暗殺事件から統一教会の闇にスポットが当たり、オリンピック賄賂の問題、総務省の文書問題等、わずか1~2か月前の事象を忘れてしまうくらい様々なことが次々と沸いては消える。一方良いニュースと云えば、WBCでの日本の活躍。スポーツの世界大会については期間中のみ国粋主義者になってしまう。また春の訪れが異常に早く、瞬く間に桜が訪れ、コロナが落ち着いてきたおかげで花見が以前のように伸び伸びとできるようになったことぐらい。

一方、同年代や下の世代の訃報が相次ぐ年になり、今までになく自分の年齢を意識せざるを得なくなってきた。特に作家大江健三郎さんの逝去にはすごく考えることがあった。若い頃大江さん、高橋和己さん、井上光晴さん等の難解な小説に挑み、インテリゲンチャ然としていた若きころの自分自身を思い起こす貴重な時間にもなった。

あまりの時の流れの速さに圧倒され、気が付けば4月、2022年度内の発行を目指していた機関誌がまた乗り遅れたバスのように年度を越してしまった。

今年の事業計画の目玉は、自立訓練(定員6名)を新たにスタート、法人事業の広がりには子供から高齢者までのそれぞれの年代に応じて受け皿を作ってきたものの、そうそうの杜の資源の中でなんとなく気になる年代として迷っていた。

。

我々は、知的障害のある人たちに60歳過ぎても、65歳を過ぎても老後という選択肢はなく働き続けることがアイデンティティを維持し続けることなんだと勝手な理屈で強制し続けてきた

ここから、反省を込めて考えるべきことは、障害のある人たちは、支援学校や専修学校などを卒業して「大学」という人生の中でもバラ色で一番大事な時間から、障害故に全く排除されてきたことに着目しなければならない。一部の大学では、以前から教育保証の観点でオープンキャンパスと称して大学を開放していたところもある。

この期間を保証するために、生活訓練2年、就労移行支援2年を社会への学びの期間として提供するために自立訓練をスタートした。

定員はわずか6人であるが、志は大きく、学びを大事にしながら取り組んでいきたい。



地域生活支援センター あ・うん

地域生活支援センター あ・うんは相談支援事業所です。特定相談支援で 170 名、一般相談支援で 102 名、障害児相談支援で 20 名の方が利用しています（重複利用あり）。

利用者の生活に関する悩みや相談、支援の必要性などについて、親身になって対応しています。また、本人だけではなく家族の方が直面する様々な問題や手続きについても相談支援員がサポートします。

障害の状態や生活環境などに合わせて、個別のケアプランを作成し、必要な支援を行います。また、利用者の自立支援や地域生活の促進を目的として、日常生活支援、就労支援、地域交流支援など様々な関わりを行います。

あ・うんの特徴としては地域定着支援の利用人数の多さと、それを支える支援体制が充実していることです。地域定着支援は単身生活の方の緊急事態に直接訪問し、それを解決することを目的とした制度です。「地域生活を支えていく」というそうそうの杜の法人としての在り方とマッチした制度です。緊急事態は障害特性によって様々です。小さなモヤモヤをため込むと生活が乱れ、それは仕事や日中活動の場にも影響を及ぼします。そうなる前にまずは一度連絡をしてもらえるように、気軽にやりとりができる関係性を作っていけるように心がけています。

相談支援なので利用者の想いに寄り添うことは当たり前のことですが、他の障害福祉サービス事業よりももう一歩踏み込んで利用者側に立つことを意識しています。



日々の様子



【毎月行う振り返り】

ここで本人の希望や
気になっていることを話し、
関わるスタッフと共有します。
課題があれば一緒に解決方法や
取り組みを考えていきます。

障害福祉サービス利用に至って
いない方との関わりの様子。
本人の話を聞きながら竹とんぼを
作っています。
焦らず、本人のペース・想いを
大事にしています。



【利用者と相談員との勉強会】

利用者の気になるテーマを調べて
勉強しています。
左の写真はお茶やコーヒーを
飲み過ぎるとどうなるか、
というテーマの勉強会です。

【余暇の関わり】

仕事が休みで、その時間をどう過ごしたら
いいのかわからないという方もいます。
写真は事務所に遊びに来てもらい、
一緒に昼食を作っているところです。
こういう場面からわかることも多々あります。



Prife (プライフ)

- ・就労定着支援・就労移行支援(定員 6 名)
- ・就労継続支援 B 型(定員 14 名)

☆就労定着支援

主な就職先企業

- ・ヤマト運輸(株) 3 名
- ・タカスタンダード(株) 1 名
- ・ポーターズ(株) 1 名
- ・(株) 大山養豚所 1 名
- ・ニッセイニュークリエーション 1 名
- ・F&LC サポート 1 名 等

☆就労移行支援

現在一般就労に向けて 4 名の利用者が利用しています。その内 1 名は在宅支援での支援を行っていて、なかなか外に出る事もままならなかった利用者が徐々に外に出る事が出来るようになってきており、今現在木曜日 13:00 に Prife に通所して話し合いが出来るようにまできています。他のメンバーはプログラムを受けスキルアップを図りながら一般就労に向けて日々取り組んでいます。

主なプログラム

- ・SST プログラム

SST とは social skill training の略で「社会生活において上手にこなしていくためのスキルを磨いていく」という意味です。

- ・パソコンプログラム

毎週火曜日午後 3 時半から 1 時間程度行っています。まずはタイピングの練習から始め 3 か月毎に目標を決めて取り組んでいます。

☆就労継続支援 B 型

現在定員 14 名に対して 16 名の利用者が利用しています。年齢層も幅広く 19 歳から 65 歳の方まで利用されています。作業内容も複数の企業より作業を受注し多様な作業があり適性に応じた支援はもちろん出来ない事もどうすればできるかなどスタッフみんなで考え治具を作りながら能率、効率も含めて取り組んでいます。

また、一般就労も視野に入れながら取り組んでいます。

機械を使つての作業や、個数を数えてネジを袋に入れる作業、手先の器用さを必要とされる作業など様々な作業が有ります。ネジを入れる作業では毎回数量が違ったり入れる部材の種類が多かったりと利用者によっては混乱する方もおられるので、治具を作り間違えないように作業をしています。





座座

2021年4月に定員20名の就労継続支援B型事業所として新しく立ち上げました。特徴としては自閉スペクトラム症の利用者方を中心に組みが出来るようにしています。事業所内も個室スペースや仕切りを作り環境的なことはもとより、個々のケースに応じた視覚提示や作業の取り組み方等、工夫することで自閉スペクトラム症を有する方を中心に過ごしやすい働きやすい環境を作っています。

座座の事業所内では仕切り版や個室スペース等、快適に作業が出来るように机の間に仕切り版を設置することや個室スペースを作り刺激が少ない環境で落ち着いて作業ができるようにしています。

食事についても作業と休憩のメリハリをつけるために食堂へ席を移動してもらい食事スペースで食事を摂ってもらっています。

作業の取り組み方について紹介します

・トランジションエリア・ワークスペース（・一日の見通しが立てれない。次に何をすればいいかわからない人にとってのスケジュールを確認する場所）
トランジションエリアを設置しカード（本人が理解しやすいように写真や絵等）を使い、一日の見通しが立てられることや自分で動けるようにしてもらっています。ワークスペースを活用することで、次の作業の提示や作業が終わる時にどこに置いたらいいかが分かるように自分で作業をする促しにもなっています。

・トークンエコノミー法（・トークンとはご褒美という意味で、エコノミーは仕組み）

好きなことに対して行動を自発的に引き出す。

座座でトークンエコノミー法を使っている利用者は好きな物をパネルにして6等分にして作業をして1パネルずつ渡していき、パネルが完成することで一緒に買い物に行き好きなものを獲得できる。好きなものを通じて作業をすることで、作業席に座る時間も増えて作業をする時間も長くなり一日作業をすることも出来ています。

・畑仕事 座座では週2回（月・木）奈良の畑や京都の田んぼに行ってます。

自閉スペクトラム症の方にとって刺激の少ない自然な環境で取り組んでおり、収穫した野菜は杜のShokudoやKawasemiに提供し皆さんが食べられる配食の材料に取り入れています。

座座では構造化や作業の取り組みを行うことで利用者が自ら理解して行動できるような取り組みを行っています。





- ・定員 20 名
- ・作業内容:主に金属部品内職(バーコードシール貼り・梱包・検品等)
- ・利用者平均年齢 45 歳(20 代~70 代)/男女比 1:1

就労継続支援 B 型を利用する人には、就職を目指したいけれど働く自信や経験が乏しい、働いたことはあるけれども継続することが難しかった、ゆっくり自分のペースで出来ることがあればいい等、理由は様々です。作業の時間は 1 日の中心にはあります。しかし、それだけが就労継続支援 B 型の事業所の役割ではありません。作業をすることから始まったとしても、毎日の多くの時間を過ごすのであれば「今日はおもしろかった。明日も何かあるかな。また頑張ろう」と思える居場所の一つになればと思っています。

つむぎ館では、作業だけでなく余暇の時間も重視しています。外部講師による歌・ダンスの時間や利用者企画等です。月 1 回程度、利用者中心で話し合いをしています。やりたい企画を通す為に奮闘し企画書の作成もします。自分達の楽しみを自分たちで作っていくことは、参加している実感と達成感が大きいようで「楽しかった。次はどうしようか?」と次回に繋がっていきます。ただし、集団が苦手な人にとっては、行事や外出も苦痛になります。日中活動においても同様で、声や音・人の動き等の刺激に敏感な人も多いです。また、外出となると高齢の利用者にとっては、若い人と足並みを合わせて移動するという事に不安を感じることもあります。高齢の利用者は長年働くことが中心であった為、作業以外のことをすることに抵抗もありました。

そこで「作業をすること」というスタッフも含めての意識を変えるため、好きなことをする時間があったとしてもよいのではないかと、少人数のグループで活動する時間を設けてきました。裁縫や絵画、散歩グループ等々。行事がある度にグループを作って、グループ及び全体での一体感を出すようにもしました。一生懸命継続している姿、面白い作品を作っている姿を見て、良い刺激を受けていることもあります。良いところや凄いと感じることを見つけて、こっそり参考にしていたり、褒め上手な人からの称賛に気分が良くなっていったりと、少人数の中で少しずつ影響し合っていく、グループ以外にも広がっていきます。きっと作業だけをしていたら、お互い見えなかったことだと思えます。個人個人の強みや興味が広がっていく、挑戦してみるきっかけもできてきます。

「楽しいことがあれば仕事もまた頑張れる」という気持ちを大事に、少しでも「よかった」と思える 1 日の積み重ねや「楽しい」が、広がるように活動に取り組んでいます。



日中活動

祝日は皆でボーリングへ行きました♪



週に1度の手芸の日



作業は作業！
遊びは遊び！
楽しい場所、
楽しい時間を
過ごしたいで
す♪



つむぎ館の前だけではなく、商店街や
駅前の掃除もしています！

清
掃



つむぎ館の画伯です♪

絵
画



外出♪

桜の通り抜けへ行っていました。
良い天気でもとても綺麗でしたね♪



Kawasemi (杜の Shokudo、Lian の杜、杜のざっかやさん(本と窯))

・Kawasemi 就労継続支援 A 型

雇用契約と利用契約を結び、最低賃金を払います。勤務時間はほとんどの方が 9 時から 17 時です。

蒲生四丁目にある大人気の醗酵薬膳のレストランで、醗酵卵を使用し新鮮な季節の野菜やお肉を取り入れ心と体が喜ぶ料理を提供しています。

仕事は主に仕込み・盛り付け・洗い物・掃除・接客・電話対応などを行います。お客様に美味しかったと言ってもらえる事に仕事のやりがいを感じて日々お仕事をしています。

・杜の Shokudo 就労継続支援 B 型

利用契約を結び、工賃を払います

法人本部の 1 階にあるビッフェレストランで、同法人の事業所から畑で収穫した新鮮な野菜が届けられ、それらの野菜を使って料理を作っています。ビッフェの他に、各事業所の配食作り・他法人の配食作り・店頭での弁当販売・城東区役所での弁当販売などを行っています。ビッフェ形式にすることでお客様とのやりとりを減らし利用者が働きやすい環境を作っています。

仕事は 9 時から 17 時まで利用の方がほとんどで平均工賃は約 35,000 円です。仕事内容は接客・盛り付け・清掃・洗い物・仕込みなどを行います。

・Lian の杜

Lian の杜では材料にこだわり米粉や国産小麦を使用したお菓子やパンを作り販売しています。こだわり食パンや、手書きの動物クッキーなど種類豊富なお菓子を作っています。お菓子作りの経験のない利用者でも簡単な工程から始め、何度も繰り返して練習します。

・杜のざっかやさん

杜のざっかやさんでは、ジューサーなどの小型電化製品から、洗顔やボディクリームなどの美容グッズ、洗剤や石鹸など幅広い多くの商品を通常価格より安くして販売しています。利用者の仕事は、商店街の掃除や店番・商品の補充や品出し等です。どうすれば売上げが上がるのか一緒に考えたり、接客なので身だしなみに気を付けています。基本的に店番は利用者 1 人でしていますが、近くにスタッフがいたので困ったことがあれば質問できる環境をとっています。

・杜のざっかやさん(本と窯)

杜のざっかやさん(本と窯)では利用者向けに陶芸教室を行っています。創奏、座座、げんげん、伝、Prife、いま福の家が利用しています。教室で意識しているのは、自由に感じるがままに表現していく、形にとらわれない、その人達にあったやり方で取り組んでいくことです。季節ごとの作品を作ったり、その作品が失敗したりなどした土を、もう一度使えるようにしたり、鎌詰めや窯出しと行った作業や、素焼きのヤスリかけなどを行ったり、釉薬をこしたりなど様々なことをしています。また、地域の人にも陶芸教室を開催しています。

利用者の仕事としては、主に陶芸教室の補助を行っています。それ以外には釉薬を塗ってもらったり、やすりかけ・本の整理・清掃等を行っています。



木土の



木土の



しっかやさん



Shokado



Lian's 木土

Kawase mi

庵

庵は生活介護の事業所ですが身体障害がある方を中心に受け入れしています。定員 20 名で、平均 15 名程度の方が庵を利用されています。車椅子の方だけでなく視覚障害の方など様々な障害がある方が在籍されています。喀痰吸引研修を受講済みのスタッフもあり、痰の吸引や胃ろう等の経管栄養に対応しています。医療的ケアが必要な方は現在 3 名庵に在籍しておられます。

体が思うように動かない身体障害の方々にとって入浴は重要なポイントになるかと思えます。庵には大小 2 つの風呂があり、自分である程度の方が出来る方には一般浴を利用してもらい、リフトが必要な方にはリフト浴を利用いただいています。リフトを使えない方でも 2 人のスタッフが介助して入浴していただいています。

食事も一人で食べるのが難しい方にはスタッフが介助、また必要に応じて刻み食も提供しています。

庵では家にいるのと同様にゆっくりくつろいでいただきたく、余裕を持ったスケジュールで 1 日を過ごしていただいています。

11:30 朝礼

12:00 昼食

13:30 ラジオ体操、レクリエーション開始

15:00 コーヒータイム

午後からは毎日レクリエーションを楽しんでいてカラオケやトランプ、Wii などのゲームを楽しんでいます。また季節に合わせて初詣や花見、また食事を食べに行くなど外出も行っています。

週 1 回外部講師で歌の先生にお越しいただきスタッフ、利用者一緒になって楽器を鳴らしながら歌を歌っています。リハビリやアロマの先生にもお越しいただき施術して頂いています。

庵は 2023 年(令和 5 年)4 月に鳴野に移転します。

移転後も変わらず庵に来てもらってよかったなと思っただけよう

のんびりくつろげる空間作りを目指していきます。





←入浴設備

左) 一般浴

右) リフト浴

車椅子用トイレ (右)
移乗器具かーる君 (左)



日中活動

夏まつり

誕生日会 (ケーキ作り)



外出行事



げんげん

定員20名の生活介護。

基本方針として、利用者が怪我等無く、楽しんで過ごしてもらうことが前提。食事介助、排泄介助、歯磨き、入浴、健康面の管理等、日常生活に必要な支援を行ったうえで、レクリエーション、個別の対応等を行っていく。

送迎は車2台で実施している。利用者の家庭の状況、当法人の下宿屋(地域生活)での生活を送るうえで、家族を含めて生活全般を支えるという意識をもち、送迎時間については、柔軟に対応している。

昼食については、弁当持参、配食利用者については、刻み、一口にするなど、その利用者に適したかたちで提供している。

食事に加えて、歯磨きとも基本的には自分でしてもらい、必要なところはスタッフが介助するかたちをとる。

入浴に関しては、基本的には家庭での入浴が困難な人を中心に行っている。家庭で入浴している利用者に関しても、介助者の体力等のことも考慮して、週に数回でもげんげんで行き、介助者の負担の軽減を図る。

活動に関しては、散歩、缶つぶし、陶芸、うた、ダンス、クッキング、創作活動など。かたちに捉われずに、自分なりの感性や動きで楽しんでもらえれば。

缶つぶしに関しては、缶を売却した代金で外出行事費や誕生日会のケーキ購入などに充てている。缶つぶしが自分たちの楽しみに繋がっていることを、利用者に分かってもらえればと考えている。

集団での活動が難しい利用者に関しては、個別対応を行う。なにか一緒にするという事に捉われず、特になにをするのでもなく、一緒に過ごすことで利用者の新しい面が見つければとも考えている。

買い物や空き缶、ペットボトルのキャップの回収を通じて、地域と接する機会を設けている。買い物に関しては、できるだけ利用者と一緒に近隣で買い物をしている。近隣の方に利用者のことも含めて、げんげんの存在を知ってもらうことと、近隣で消費活動を行うこと、利用者に経験を積んでもらうことを目的としている。

缶やキャップ回収に関しても、利用者の活動という面に加えて、近隣を含む外部の人との接することへのきっかけになればと考えている。

外出行事に関しては、全体で実施すると慌ただしくなりがちで、利用者だけでなくスタッフも余裕がなくなることも多いので、少人数のグループに分けて実施している。そうすることで、利用者個々人のペースで動きやすくなり、ゆったりとしたペースで、普段と違う雰囲気を味わってもらいたい。

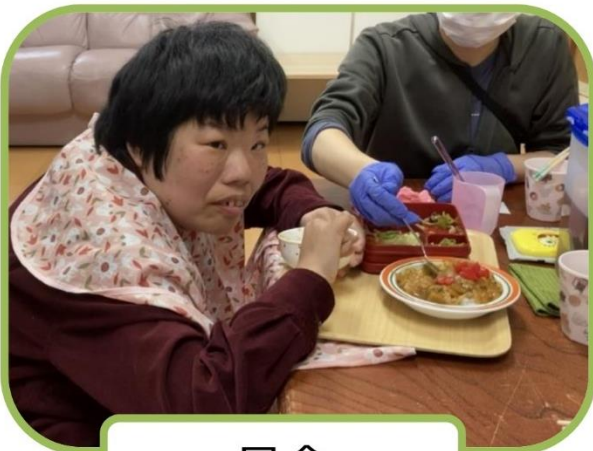




げんげん



送迎



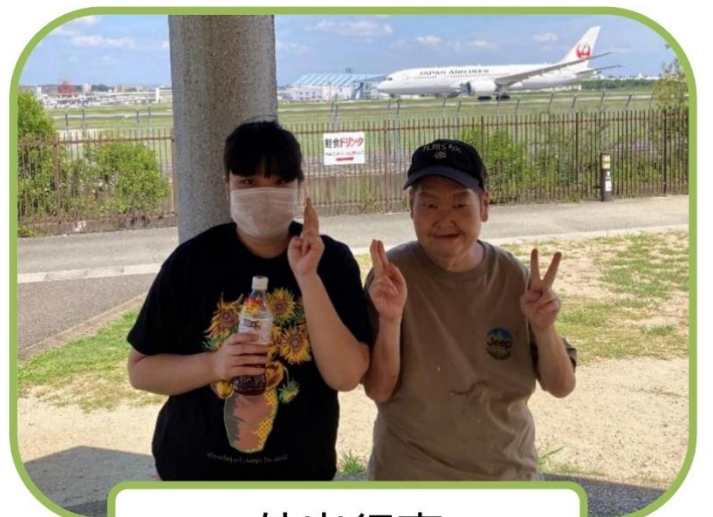
昼食



日中活動(さんぽ)



日中活動(うた)



外出行事

創奏

創奏は生活介護事業所である。主に日中活動の場や軽作業、商店街内の一角で駄菓子屋の販売等を行っている。事業所は大通りに面した一軒家で1階を作業場所、2階は創作活動などの日中活動の場として場面を分けている。平日開所（祝日も開所）入浴なし、送迎あり。1日の流れは送迎や徒歩やバス等で通所。朝礼、今日の予定、連絡事項等。そして商店街の清掃後各々の活動に移る。午前の活動、近隣清掃、消毒の時間、昼食、体操、午後の活動、ティータイム、事業所内清掃、終礼という流れである。

前置きとして生活介護創奏の職員はまず利用者「各々」の日中の充実、一人一人違う自分も含めての各々が何に「喜び」を感じるかを意識して日々の業務に当たる。そのために我々は日々どう動くのか、どこにポイントを置くか。相手との関係、社会性や距離感を常に意識して、適切な距離を取り合いながら関わっていく事を大事にする。その中で各々に沿ったテーマで「エンパワメント」しあう。もう一つ大事なことは家族とのやり取り。時に困り感に傾聴し、未来像も一緒に描いていく。日中活動の現場においては、場所場面を大きな枠で見て場面転換やメリハリ、バランスを取る様にする。「俯瞰」する事が重要なのである。スタッフはそれを前置いたその上でお互い喜びや楽しさを共有する。

1階で行っている主な活動は工賃に繋がる作業で行っている具体的な活動内容としては、ネジ入れ等の受注作業、送迎車両の清掃作業や商店街内にある鍼灸院のシュレッダー作業等。作業でも各々ペース、集中力、数の概念や理解等一人一人違うので、休憩の入れ方やトークン等（カレンダーに5個たまれば何か買いに行く等）、各々の能力を見極めながらスケジュールや取り組みを変えている。人によっては工賃を稼ぐという目的もあるが日中活動の一環とした位置づけにもなっている。作業、活動に遊びの要素も取り入れていく様に心掛けている。

2階で行っている主な活動として創作、折り紙や貼り絵やさをり織り等しているが、最近では皆で大きなものを一緒に制作する様にしている。商店街に飾るオーナメント作り等。これは一体感や皆を巻き込むため。さをり織りに関してはスタッフと一緒に製品化し、駄菓子屋や外部で販売も行っている。製品作りに関してミシンの練習も一緒に行っている。他は昼食作りをしたり、おやつ作り等したりしている。また自分たちの場所と生活場面も意識して貰う為、掃除の時間を設け皆で事業所内の掃除も行う。季節毎の掃除、フィルター掃除等も行っている。配膳、洗い物やトイレ掃除は当番制で行っている。また外部講師として、ダンス、ヨガ、歌の時間を取り入れて貰っている。また陶芸の時間もあり皆の楽しみの一つになっている。講師の時間以外でも職員と楽器で皆と歌ったり踊ったりしている。

駄菓子屋ではお菓子の販売を行っており、そこではただ店番するだけでなく問屋まで仕入れ、在庫管理、お金の計算等を一緒に行っている。苦手な部分は一緒に練習する。当番制で場面転換やメリハリをつける要素も含み、各々のスケジュールに組み込んでいる。

創奏は決して障害者が集まる特殊な場所「作業所」でなくあくまで地域の中の一つの「場所」として存在する。全ての活動を無理強いすることなく、必ず仕事や活動をしないといけないという事はないとして、居場所としての存在も目指している。我々と同じく朝起きてここにいけばこれがあるという「安心感」みたいな場所でありたい。

上記の様な事を目指し、利用者が帰る時に「今日は創奏に来て良かった。」と思って貰える様に。そのためにまず我々職員が精いっぱい楽しむ事が大事。そして共に伴走していく事に重点を置く。



いま福の家

1. いま福の家概要

いま福の家は障害者と65歳以上の高齢者を対象とした地域密着型通所介護サービスの両方が利用できる共生型サービスです。

特徴として、主な利用者が高齢であることから一日の流れがゆっくり過ぎる中でも朝の会、昼食、ラジオ体操、レクリエーション、おやつ、終わりの会とメリハリをつけ規則正しい生活を送っています。また、土曜日も開所していることが強みになっています。

【開所日】月～土(祝日も開所)

【開所時間】9:00～17:30

【定員】1日10名

【対象】知的、身体、精神

【送迎】あり

2. 健康維持

朝の会では「今日は何の日?」や有名人の誕生日を話題にあげ、昔の記憶を思い出してもらっています。ストレッチ体操や筋力アップ体操で転倒防止や骨折防止を目指しています。

3. 日中活動について

13:30頃からレクリエーションに取り組んでいます。

全体で何かするというより、トランプするグループ、折り紙をするグループなど個人で選んでいただいています。他にもさおり織をしたり、箱折り、雑巾縫い、Wiiのゲーム、音楽鑑賞、DVD鑑賞、エアロバイク、マッサージチェア、散歩、ベッドで横になるなど様々です。それ以外では季節に合わせた行事(花見)や、誕生日会も行っています。

また、週に一度程度外部講師として、歌やアロマ、陶芸の先生を呼び質の高いレクリエーションを提供しています。スタッフも参加し、一緒になって楽しめるように取り組んでいます。

4. 共生型変更に向けて

今年の4月から現状の介護保健主体の共生型から障害保健主体の共生型に変更予定です。それに伴い、定員10名から20名と大幅な増加になり、今までとは勝手が違うこともあるでしょうが、利用者が「今日もいま福の家で楽しかった」と言ってもらえるよう工夫していきたいと思っています。





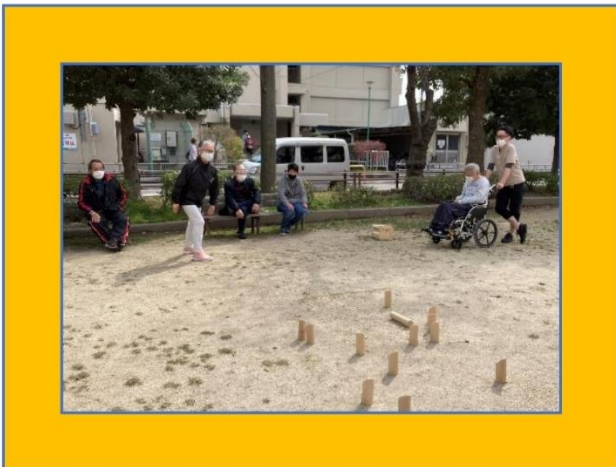
近所のごみ拾い



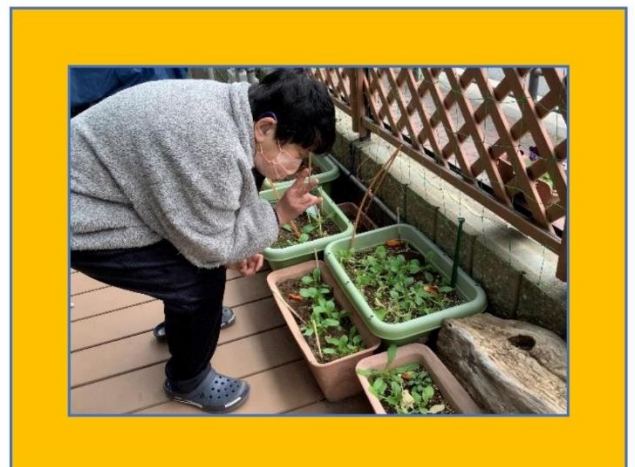
健康体操



日中活動



公園でモルック



テラスで野菜作り

伝では「一人の人として出会うこと」「褒めること」「待つこと」の3つを柱とした集団療育を基本とし、主に遊びを通して一人ひとりの成長を目指しています。「落ち着ける場所」、「楽しめる場所」として存在しながら、個々の障害特性に応じて関わり、日常生活動作や感覚統合、社会参加などの療育を行います。

また、集団活動とは別に個々に課題を設定して取り組む時間を設け、本人の持っている力を引き出していきます。

そして、本人の生活全体を知り、総合的に関わっていくことが大事であるため家族や周りの人との関係を深めていくことにも努めます。情報交換し合い、何か困った時には気軽に相談していただけるような場所でありたいと思っています。

【開所日】火～土（祝日も開所）

【開所時間】9:00～17:30（※休日の場合は 9:00～17:00）

【定員】1日10名

【対象】知的、身体、精神 ※医療的ケアが必要な児童も受け入れています。

【送迎】あり

☆一日のスケジュール☆

09:00 送迎

10:00 ・はじまりの会

・口腔体操→ダンス→個別課題

11:30 掃除（消毒）

12:00 昼食

13:00 活動（集団活動、個別課題）

15:00 おやつ・送迎（授業終了後の児童）

16:00 活動（集団活動、個別課題）

+陶芸（火 or 木）、ダンス（金）

17:30 帰宅・送迎

※プログラムには週一回で外部講師を招いてのダンスや法人内の陶芸教室に参加したり、不定期で野菜作りやクッキングなどの活動を行ったりしています。また、毎月のイベントとして、創作活動やプール、お楽しみ会などを行っています。また、法人全体行事や地域のイベントも参加したりもしています。



やさいづくり



クッキング



とうげい



プール



すいかわり



たのしみ会



ダンス



ふだん使うどうきんをたたむこ
となども児童の役割です



課題のじかん



おはしの練習



色合わせ



ビーズ通し



【短期入所(ショートステイ)とは】

自宅で介護を行っている方が病気などの理由により介護を行うことができない場合に、障害のある方に障害者支援施設や児童福祉施設等に短期間入所してもらい、入浴、排せつ、食事のほか、必要な介護を行います。

【利用目的】

- ・家族が入院して自宅で介助できない
 - ・家族の休息
 - ・家族の高齢化で介助がしんどい、次の展開を考える
 - ・親亡き後を考えて
 - ・支給量が足りない
 - ・家族がコロナになった
 - ・事業所の対応が悪く、区役所で寝泊まりしている
 - ・マンションのエレベータが工事で止まる
 - ・一人暮らしの練習
 - ・虐待からの避難
- etc

【添の特徴】

利用定員5名(個室・車いす利用可)、泊まりスタッフ1名、生活支援員1名からなります。

様々な理由で短期入所を利用される方がいます。一人一人の利用目的にあった取り組みを考えて楽しく過ごしてもらえるようにしています。

例えば、地域生活のイメージが湧かない利用者から・・・

- ・洗濯をまわしたことがない。衣類の干し方がわからない
- ・荷物の整理ができず、タンスを使って整頓の練習したい
- ・光熱水費って何?
- ・調理の練習をしたい
- ・季節に応じた服装がわからない

といった声があがります。日常生活で起こり得る困りごとを一緒に考え、練習することで経験を積んでいけるようにします。

全てスタッフが手伝うのではなくどのようにすればステップアップできるか等、それぞれの利用者に応じた支援を行っています。気が付いたらいつの間にかできていたという視点を持ち関わられるようにしています。

【スケジュール】

16:00～ 利用者 IN

シーツの準備、入浴

18:00 宿泊者 IN

夕食、服薬、食器片づけ、入浴、洗濯、洗濯干し、歯磨き等

7:00～ 朝食、着替え、服薬、身だしなみチェック、出発準備

洗濯、掃除、ゴミ出し等

9:00～ 利用者出発

*食事、入浴以外は自由に過ごしています

*空き時間にトランプや塗り絵、コーヒータムなど其々自由に過ごします



短期入所 添の様子



2階居室 (和室)



3階居室 (洋室)



1階居室 (車いす)



リビング



玄関



洗面所・浴室



外出



調理練習



スイカ割



地域行事
だんじり

ホームヘルプセンターとことこっと

事業所名称由来:「とことこ」と利用者宅に足取りも軽く駆け付けるように



事業所目的:利用者の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者等の立場に立った居宅介護等の提供を確保することを目的としている

運営方針:一人ひとりが望まれる地域生活を支援する

対象者:障害児者・高齢者

サービスの種類:障害福祉サービス
(居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援)
介護保険サービス
(訪問介護・予防訪問介護)

登録利用者数:延232名(令和5年1月末現在)
(内訳:居宅介護・同行援護92名・重度訪問24名
(内:医療的ケア6名))

移動支援:99名・訪問介護(予防含む):17名
※法人内の日中活動事業所を利用されている方が全体の7割を占める。

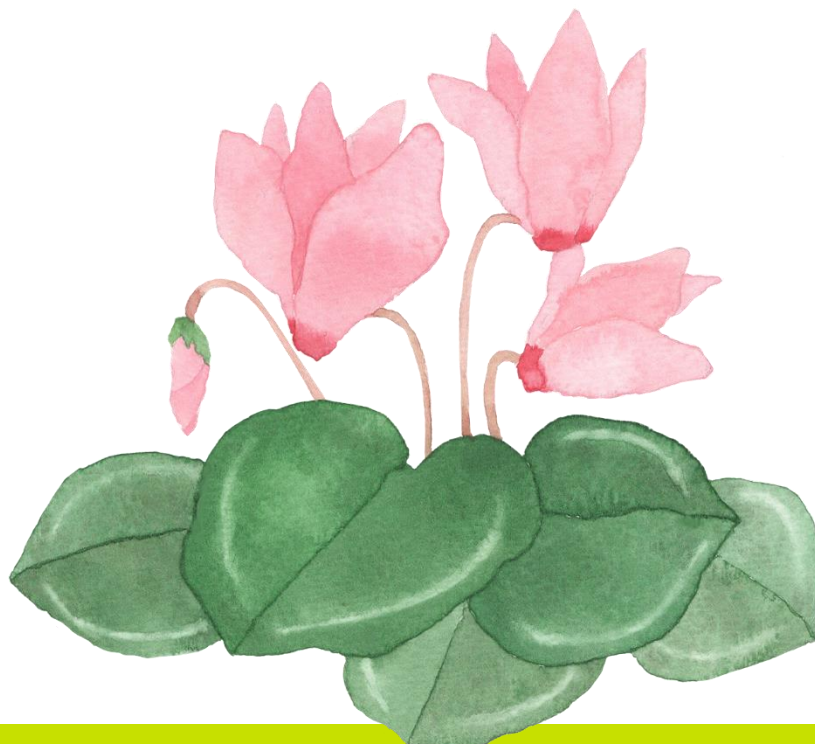
職員構成:常勤ヘルパー:18名(内2名兼務・内4名 座専属)

事務員:1名

登録ヘルパー:47名(居宅10名・移動支援37名)
(令和5年1月末現在)

※現状として登録ヘルパーに関しては、60代~80代の方が中心で活動されている。

新規受け入れ状況:登録利用者数に対してヘルパーの絶対数が足りない状況。現在登録されている方でも希望通りの時間や曜日の支援が難しく、新規希望の連絡も日々あるが、土日祝の移動支援や早朝・夜間のヘルパー希望がほとんどを占めており、新規受け入れがなかなかできていない状況である。



☆移動支援を利用した活動写真☆

① 散歩で花見へ



② 牧場へ外出



③ 高級お肉を食べに外食



④ ヘルパーと一緒に和歌山旅行



⑤ お買い物



地域生活支援センターあ・うん

障害相談支援のあ・うんと同じ名前ですが、こちらは介護保険/居宅介護支援の事業所です。介護保険のケアマネジャーの事業所です。

《在籍》

介護支援専門員2名(女性1名・男性1名)
利用者数/登録28名(R5.3.1 現在/要介護13名・介護予防15名)

《事業内容》

居宅介護支援専門員(ケアマネジャー)が利用者からの相談を受け、介護サービスを利用するためのケアプランを作成し、事業所との連絡・調整などを行います。

《特色》

登録利用者は、ほとんどの方がそうそうの杜の日中活動利用者で、65歳になって介護保険対象になった方、またはその親御さんです。

《大事にしていること》

障害福祉サービスを長年利用してきた利用者が、65歳で介護保険対象となり介護認定を受けると、介護保険優先の原則から介護保険に切り替えなければなりません。長年利用してきた障害福祉サービスの日中活動の変更やヘルパー時間の短縮など、介護保険制度に利用者の生活を合わせざるを得ない状況があります。そうそうの杜のケアマネジャーとして、これまで使っていた障害福祉サービスを基本として、介護保険と上手に併用した支援ができるよう丁寧な制度間の移行を心がけています。

利用者の高齢化は避けることができません。ライフステージの移行をできるだけソフトランディングできる支援を大事にしています。

《所在地》

大阪市城東区中央 1 丁目6-28(とことこっと同居しています)

TEL/06(6167)7530

FAX/06(6955)8826





いろいろ相談に対応します。



とことこっと（訪問介護他）と同居しています。



Kawasemi の横を入ると



玄関があります。

大阪市障がい者就業・生活支援センター/北部地域センター

障がい者就業・生活支援センターとは!! ⇒略して、就・(ぽつ)と呼ばれています。

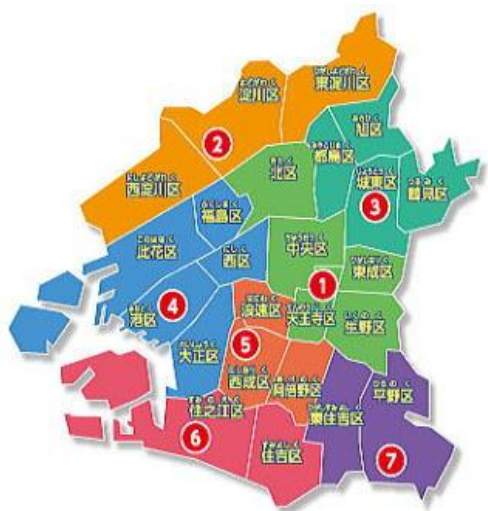
当事者の「地域で働きたい、働き続けたい」を応援する機関で、設置箇所数(おおよそ人口30万人圏域に1ヶ所)は、全国で338ヶ所になる。大阪府内では18ヶ所設置されており、内1ヶ所が大阪市となる。大阪市は、更に7ヶ所に細分化されており、基本的には当事者が在住する区の管轄地域のセンターが担当している。

①東部センター(北区・中央区・天王寺区・東成区・生野区)

②淀川センター(淀川区・東淀川区・西淀川区)

③北部センター(社会福祉法人 そうそうの杜)

旭区・都島区・城東区・鶴見区の4区を担当しており、職員数は、就業支援ワーカー4名(内、1名管理者)の体制



④西部センター(此花区・福島区・西区・港区・大正区)

⑤中部センター(浪速区・西成区・阿倍野区)

⑥南西部センター(住之江区・住吉区)

⑦南部センター(東住吉区・平野区)

対象の方は、大阪市内にお住まいの方で、原則、障害者手帳(身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害・難病他)をお持ちの方になる。

役割

①就職のための支援

求職活動(ハローワーク同行・履歴書確認・必要機関の紹介・他機関との連携・福祉サービスの見学同行など)を応援します。

②働き続けるための支援

会社への訪問・本人や職場と面談・課題の整理・環境調整・生活相談など、働くための仕事と生活のアドバイスや余暇活動のアドバイスなどの支援をします。

③関係機関との連携

必要な支援機関との情報共有を行います。

(ハローワーク・職場・病院・福祉サービス事業所など)

就労支援の流れ

退職した場合は、②又は③で就職に向けて再支援

①相談(支援の流れを説明、現状の聞き取り、登録、今後の道のりの提案)



②職業準備(サービスの見学・体験・職業センターでの職業評価・訓練校の案内)



③就職活動(ハローワークでの求人活動・企業面接会参加・企業実習)

就職

④職場定着支援(職場訪問・生活面の相談・職場の環境調整・余暇活動の提案)





事務所入口看板



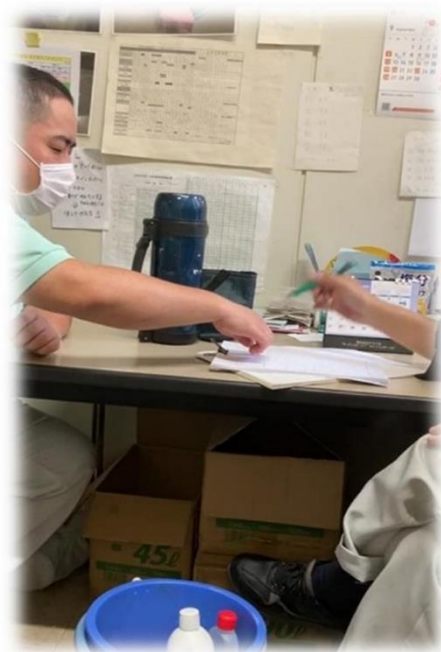
事務所内部の様子



職場（作業の様子）



来所相談の様子



職場でのケース会議の様子

春のきざし

關 宏之

早春のころは、冬の名残と春のきざしが交錯して季節がコトンと廻ります。この時期ならではの行事や風物詩が浮かびます。

「春の皿には」

先ごろ、“七草がゆ”の行事を伝えるテレビ放映で、それを食べた子供たちが口々に美味しかったと絶賛するなかで、一人の男の子が「草の味がしただけや!」と言い放った。こんなイケズな発言をする子は大好きや。スーパーマーケットでも、七草を詰めたセットを販売しています。本当に各家では、この草たちを放り込んでおかゆを作り、美味しくお食べになったののだろうか。

私の子供の頃には、正月6日の晩には、ばあちゃんが裏の小川や田んぼで摘んできた七草を、大きなまな板の上へ並べ、包丁、スリコギ、じゃもじ、でまな板を叩きながら、神棚の前で“鳥追い”をしました。これは、まだ歳神(としがみ)さまが滞在されている正月に、聖なる数である七つの草を供え、豊作や災害に逢わぬように行った祈りだったのです。正月の飾り物は、もともと歳神さまをお迎えするためのもので、門松は新年に幸福を授けに降りてくる年神様が迷わないための目印で、鏡餅は歳神さまへのお供え物だといえます。

さて、鳥追いです。私が覚えているのは、「七草ナズナ、唐土の鳥が日本の土地へ 渡らぬさきに、七草そろえてホーイホーイ」というもので、妹や弟と神棚の前に内揃ってこの歌を3回繰り返して、その後、“七草がゆ”を頂いたものです。美味しかったという記憶はありません。なお、うたにある「唐土」は中国のことで、近頃の鳥インフルエンザやコロナを想起させます。

正月の行事にはまだまだあって、村や部落の境に若い衆が「塞の神」と称する男性や女性の性器を模った巨大なしめ縄をはってその出来栄を競ったものです。子供たちは、藁をたたいたり、縄を編んだりする作業を手伝い、大人びた会話を楽しんだものです。

さて、「春の皿には苦味を盛れ」という言葉があります。自然に誘われて生える旬の食材には生命力がみなぎっており、とりわけ、春の食材・山菜は冬の間、眠っていたカラダを「苦味」で目覚めさせる「食養生」だといわれていますが、そんな理屈はともかく、苦みのある“ふきのとう味噌”で熱燗、うまいものは美味しいです。熊が冬眠から目覚めたとき、一番はじめに口にするのが「ふきのとう」だとか。眠っていたカラダを目覚めさせるための知恵なのでしょう。

山菜は、栽培されていない野山の食材のことで、ふきのとう、うど、タラの芽、たけのこ、山椒、ふき、たけのこ、わらび、こごみ、せり、菜の花などなどそれぞれに癖のある食材はひと手間をかけないと食べられないのですが、そうまでして食卓にのせたのは冬の間中ずっと出番をまっていた山菜たちへの連帯の挨拶のようにも思えます。

この時期、住居前の土手には、枯草と咲き出したばかりの水仙が同居しています。



「この道」

いつの頃からNHKの“ラジオ深夜便”で、朝 5 時前の「誕生日の花と短歌」で紹介された鳥海昭子さんの短歌に惹かれて、「誕生日の花と短歌 365 日一短歌とエッセー」を買って求めました。鳥海さんは、山形の児童施設に勤務されている方で、そうそうの杜でいうと和田さんのような方かなと勝手に推測しています。

鳥海さんの一文があります。「盗癖の子の手をとれば 小さくてあったかいのでございます」。その昔、私が施設に勤務していたころ、宿舎内で盗難が横行して、苦慮したことがありました。私は、盗まれた人がいる以上、再発を防ぐのは当然とばかりに徹底して探索しました。そして、最終的に予想さしなかった人物に行きつき、「君なのか？」と尋ねると彼女は大粒の涙を浮かべてうなずいたのです。幸いにもそれを契機に盗難事故は無くなり、彼女も望む職業に就きました。

「罪を憎んで人を憎まず」と言いますが、鳥海さんの場合、その後も何度か小さくてあったかい手を取り、こころを痛めたことはなかったのでしょうか。

先ごろ、そうそうの杜のスタッフによる創設以来の 20 年の記憶を記録として記した「まちなかの社会福祉」(social welfare in our town)と題する論文が、大阪市社会福祉研究誌に掲載されました。そのなかで、自分の立場を支援者ではなく「伴走者」と表現したスタッフがいました。伴走者ですからいい時もアカン時もいつも寄り添います。多分、あったかい手の主は、いくら咎められても、厳しく罰せられても、伴走者の寛容を試すこともあり、その都度伴走者を打ちのめすことになるのでしょう。しかし、それでも伴走者は、「小さくてあったかい手」をただただ強く握るだけなのでしょうね。

自分たちの居場所である「まちなか (our town)」には時には苦い思いも交錯します。

1 月 14 日の誕生日を迎えた人に、鳥海さんは、「それとなく 優しき人をひきとめて 南斜面の真紅のツバキ」と詠んでいます。ツバキの凜とした姿にここからの願いが重なります。



「イースター」

私は、音感もなく、音楽の才能もないことがわかっていたのに、中学時代に音楽の先生から「君はチューバ向きだ」と言われ、吹奏楽にあこがれて中学・高校・大学とずっとチューバ吹きでした。大学は、〇〇大学芸能学部と呼ばれるほど過酷なクラブで、朝練、午後3時から7時頃までの練習、年中休みなし。授業よりもクラブ活動、アメリカンフットボールや野球の応援に行くのは当然のことで、ウィンドオーケストラと称する100名ほどのメンバーで、朝比奈隆さんも指導にいられていました。

入学したのが東京オリンピックの年で、カナダへの演奏旅行が決まっていた。オリンピック期間中の1か月間のカナダ横断の演奏旅行で、カナダ選手団を乗せてきた飛行機を利用してカナダに行き、選手を迎えにきた飛行機で日本に帰ってきました。1ドル360円の頃で、母は、ドラ息子の気まぐれ旅行の費用を捻出するために借金までしてくれました。母にはホンマにすまんことをしたと思っています。

演奏した曲目で印象に残っているのが交響詩「ローマの松」です。レスピーギが1924年に作曲。何世紀にも渡ってローマの「繁栄・祈り・躍動」の歴史を4場面の「ボルゲーゼ荘の松」「カタコンベの松」「ジャニコロの松」「アッピア街道の松」に託して表現した曲だといわれています。吹奏楽ではよく演奏される曲ですが、トランペット、クラリネット、オーボエ、ホルンなどが主役で、チューバは添え物程度。

「カタコンベの松」では、主役のトランペッターが厳粛で荘厳な演奏をします。カタコンベは、ローマの古い地下墓地のことで、殉死したキリスト教徒の悲嘆や復活をグレゴリア聖歌(サンクツウス)にのせて奏でます。いつもは自信に満ちた先輩が、演奏前に緊張のあまり舞台でがたがたと震えていました。チューバの出番は最後の「アッピア街道の松」のにぎやかしかけて、それまではひたすらひな壇での我慢が強いられます。この間鷹揚なメンバーたちは「何列目のお嬢さんな〜」などと不謹慎な話をしながら出番を待ったものです。

大卒後に求めて教会に通ったことがありました。クリスマス以上に重要な意味を持つ受難節(四旬節)の時期で、「復活祭(イースター)までの長い期間を、キリストのよみがえりを信じて行われる教義上最も矛盾に満ちた厳粛な行事が執り行われます。教会には、処刑からよみがえりまでの道程を描いた13枚の「十字架の道行(みちゆき)」があり、その前で自分自身の復活も重ねて祈るのです。ある時、イースターのその日のミサで歌われた聖歌があの“サンクツウス(Sanctus)”でした。震えました。

昔、「十字架の道行」に託して伝記を書いたこともあり。今年も四旬節の季節を迎えます。時折、サンクツウスがよぎります。

32 *Più mosso* ♩ = 60
(il più lontano possibile)
(interna)

Trb.
Do

f ma dolce ed espressivo

A 4

The image shows a musical score for a trumpet and trombone part. It is marked '32' and 'Piu mosso' with a tempo of 60 beats per minute. The score includes performance instructions such as '(il più lontano possibile) (interna)' and 'f ma dolce ed espressivo'. The notation is on a single staff with a treble clef and a key signature of one sharp (F#).

「恩送り」という言葉がある。私が就職して最初に配属された部署にこの言葉を教えてくれた先輩がいた。このころの私は男性と同じ仕事をしながら、お茶汲みや灰皿を片付けることに疑問を抱きつつ周りの空気に従っていた。

ある日、給湯室にヤカンをかけていて呼び出され、そのまま仕事に入ったため火を消し忘れた。ヤカンの湯は刻一刻と蒸発し、危うく庁舎を焼失させてしまうところだった。先輩は私の特性をよく心得ていて、私が席を立てから戻って仕事に埋没している姿を見て、ヤカンの運命を察知したらしい。「消しておいたよ」と言われてもなかなか思い出せなかった。こんな風に程度の違いこそあれ、この先輩に助けてもらいながら私は社会人のスタートを切った。

先輩は紀子さんという。紀子のノリは紀元の紀と書くと説明を受けたとき、昭和 15 年生まれですねと返したことで親密になった。紀元二千六百年の紀元節に因んで、ご両親がこの漢字を当てたのだろうと私の頭が勝手に呟いたことが当たっていたのだ。「そんな古いこと、よく知っているわね」と彼女は微笑んだ。

仕事のこと、私生活のこと、読んでいる本など紀子さんとの交流は生きた知識を学び、自分を知ることになった。感謝しても仕切れないほどの恩を感じていた。

「あなたはあなたのままでいい」と言いながら、困ったときはいつも自分のことに置き換えてヒントをくれた。「もし、私に感謝して下さるなら、あなたがいつか誰かに見返りを求めずに躊躇なく行動すること」が恩送りになるのだと。

井上ひさしは、誰かから受けた恩を自分は別の人に送り、その送られた人がさらに別の人に渡す。恩送りとはこうした恩が世の中をぐるぐる回って行くことだと著書の中で述べている。この言葉は江戸時代からあったらしい。そしてこの考えは、キャサリン・ライアン・ハイドの『ペイ・フォワード 可能の王国』にもみることがができる。

私は娘に典子と命名した。同じ漢字はおこがましいので辞典の典を使った。

最近この言葉を思い出したのは、そうそうの杜で皆さんと出会って一年が過ぎようとしている春、この場所にこの言葉が生きていると感じたからだ。



年末の様子



寄付にご協力いただきありがとうございます

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。書面にて大変失礼かとは存じますがお力添えくださいますようお願い申し上げます。ご支援いただいた寄付金につきましては、大切に使用させていただきます。また、寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようお願いいたします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行 口座番号:00940-5-185986
振込先(加入名):そうそうの杜

一般寄付(2023年1月25日~2023年3月14日にご支援頂いた方)

稲岡 了三、倉川 俊介、太居 久実、高見 浩子、野間 満典、(株)田中止鉄工所、衣川 育良、(株)エンタープライズ、ケア・メンタリング 村上 委佐哲

(敬称略)

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申し上げます。いつも本当にありがとうございます!!

社会福祉法人そうそうの杜

■ 法人本部

城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

■ 杜のShokudo Lianの杜 杜のざっかやさん (就労継続支援B型)

Tel/06-6955-8080 Fax/06-6167-2622

■ 地域生活支援センターあ・うん (相談支援事業)

■ 北部地域センター(大阪市障がい者就業・生活支援センター)

城東区鳴野東3-2-28

Tel/06-6969-8123 Fax/06-6167-2622

Tel/06-6955-9921 Fax/06-6167-2622

■ とことこっと (居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護)

城東区中央1-6-28 Tel/06-6167-7530 Fax/06-6955-8826

■ びんの郷

城東区鳴野東2-26-18

■ 1F 庵 (生活介護) Tel/06-6958-4745

■ 2F 伝 (児童発達支援・放課後等デイサービス) Tel/06-6958-4746

■ 3F 心 (自立訓練) Tel/06-6958-4747

■ げんげん (生活介護)

城東区鳴野東3-18-5 Tel/06-6180-9670

■ 創奏 (生活介護)

城東区鳴野東3-3-1 Tel/06-6923-8929

■ Kawasemi (就労継続支援A型)

城東区中央1-6-29 Tel/06-6935-1111 Fax/06-6935-1911

■ 座座 (就労継続支援B型)

城東区鳴野東3-2-12 Tel/06-4258-6013

■ つむぎ館 (就労継続支援B型)

城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6180-6820

■ Prife (就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援)

城東区東中浜2-2-19 Tel/06-6923-8959

■ いま福の家 (生活介護/共生型通所介護/共生型介護予防型通所サービス)

城東区今福南4-15-33 Tel/06-6180-7399

■ 添 (短期入所)

城東区鳴野東3-2-5 Tel/06-6167-5395

■ 杜のこうさてん(大阪市つどいの広場事業)

城東区鳴野東3-3-3 Tel・Fax/ 06-6961-5505

